

「映画女優 京マチ子展」関連イベント

京マチ子映画祭

京マチ子本人が
選んだ七作品を、
35ミリフィルムで一挙公開！

©KADOKAWA 『足にさわった女』(1960)

A M a c h i k o K y o R e t r o s p e c t i v e

2015.10.9 (FRI) / 10 (SAT) / 11 (SUN)

早稲田大学小野記念講堂 [入場無料 Admission Free]
*事前予約は不要です。

主催：早稲田大学演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
協力：KADOKAWA、東宝、東京国立近代美術館フィルムセンター

上演作品：『甘い汗』(1964年)／『赤線地帯』(1956年)／『夜の蝶』(1957年)／『流転の王妃』(1960年)／『浮草』(1959年)
『足にさわった女』(1960年)／『濡れ髪牡丹』(1961年)

詳細はこちら▶ <http://www.waseda.jp/enpaku/ex/3720/>



enpaku

小津安二郎・溝口健二といった巨匠たちの名作から未ソフト化の知られざる傑作まで、京マチ子本人が選んだ至極のフィルム7本を一挙上映。



©TOHO CO., LTD.

「甘い汗」(1964)

PROGRAM

【開場時間】

10月9日(金) 13:30
10日(土) 11:30
11日(日) 11:30

*入場料無料。*事前予約は不要です。

甘い汗

9/金 14:10~

1964年 / 119分 / 東宝 / 白黒 / シネマスコープ / 35mm

【監督】豊田四郎 【脚本】水木洋子

【出演】京マチ子、佐田啓二、桑野みゆき

京マチ子初のテレビ出演作「あぶら照り」の映画版。水商売によって大家族を支えるたくましい母を演じた京の鬼気迫る熟演が見どころの傑作。急逝した名優・佐田啓二の遺作でもある。

赤線地帯

9/金 16:30~

1956年 / 85分 / KADOKAWA / 白黒 / スタンダード / 35mm

【監督】溝口健二 【脚本】成沢昌茂

【出演】京マチ子、若尾文子、三益愛子

売春防止法制定前後に吉原で働く女たちを主人公にした群像劇。溝口監督の遺作。京マチ子は父親との確執を抱えながらもたくましく生きる奔放な現代的な女性を生き生きと演じている。

夜の蝶

10/土 12:10~

1957年 / 90分 / KADOKAWA / カラー / スタンダード / 35mm

【監督】吉村公三郎 【脚本】田中澄江

【出演】京マチ子、山本富士子、船越英二

銀座のバーを経営するマリ(京マチ子)の前に、京都からやり手のママ(山本富士子)が突如現れる。衝撃的なラストまで目が離せない、大映二大女優の対決が魅力的な極上メロドラマ。

流転の王妃

10/土 14:00~

1960年 / 102分 / KADOKAWA / カラー / シネマスコープ / 35mm

【監督】田中絹代 【脚本】和田夏十

【出演】京マチ子、船越英二、東山千栄子

満洲国皇帝溥儀の弟溥儀と結婚した愛新覚羅溥儀の波乱な人生を壮大なスケールで描いた作品。"監督"田中絹代の代表作の一つ。京マチ子が随所で披露する流暢な中国語にも注目。

提供：東京国立近代美術館フィルムセンター

浮草

11/日 12:10~

1959年 / 119分 / KADOKAWA / カラー / スタンダード / 35mm

【監督】小津安二郎 【脚本】小津安二郎・野田高梧

【出演】京マチ子、中村錦之助、若尾文子

小津が戦前製作した「浮草物語」を自らリメイクした作品。旅回りの一座の人間模様を描く。土砂降りの中、緊迫した雰囲気で見どころの傑作。京マチ子と中村錦之助の名高いシーンが見もの。

足にさわった女

11/日 14:30~

1960年 / 85分 / KADOKAWA / カラー / シネマスコープ / 35mm

【監督】増村保造 【脚本】和田夏十・市川崑

【出演】京マチ子、ハナ肇、船越英二

越路吹雪と池部良を主演に市川崑が監督した東宝版のリメイク作品。増村には珍しいコメディ映画で、ハナ肇の映画初主演作でもある。女スリを演じた京マチ子の美しい"足"が際立つ一作。

濡れ髪牡丹

11/日 16:20~

1961年 / 89分 / KADOKAWA / カラー / シネマスコープ / 35mm

【監督】田中徳三 【脚本】八尋不二

【出演】京マチ子、市川雷蔵、小林勝彦

大映の人気娯楽時代劇「濡れ髪シリーズ」の第5作目。くっつきそうでなかなかくっつかない京マチ子と市川雷蔵の恋模様が見どころ。コミック・コメディ的な仕上げの傑作。

PROFILE

京マチ子 / 1924年(大正13年)3月25日、大阪生まれ。大阪松竹歌劇団(OSK)のレビュー・ダンサーとして活躍していたところをスカウトされ、1949年に大映に入社した戦後派のスター女優。日本人離れした豊満な肉体を持ち、敗戦後の解放的な風俗の中で、アプレ、パンパンなどの社会的現象を体現する役を多く演じ、一気にスターダムを駆け上った彼女は「肉体派女優」と呼ばれた。デビューしてまもなく『羅生門』(黒澤明監督、1950年)がヴェネツィア国際映画祭でグランプリを獲得したのをはじめ、その後の巨匠たちとの作品も次々と国際映画祭で賞を受賞したことから「グランプリ女優」として国際的な人気も博した。ヴァンプ系の役柄で肉体的な官能美と現代的な力強さを映し出すと同時に、スクリーンから発せられる古典美は多くの観客を今もなお魅了し続けている。

EXHIBITION

入場無料

企画展「映画女優 京マチ子」

2015年10月8日(木)~12月22日(火)
10:00~17:00(火・金曜日は19:00まで)
早稲田大学演劇博物館
六世中村歌右衛門記念特別展示室
※休館日：10/21(水)、11/6(金)、11/18(水)、12/16(水)

INFORMATION

東京メトロ東西線「早稲田」駅 徒歩7分 / 都電荒川線「早稲田」駅 徒歩5分 / JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅(早稲田口)から都営バス「早大正門行」終点下車 徒歩2分

【お問合せ先】

早稲田大学演劇博物館

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 / TEL.03-5286-1829(平日9:00~17:00)

✉ enpaku@list.waseda.jp www.facebook.com/WasedaU.ENPAKU @waseda_ENPAKU

▶ 最新情報を随時更新! 企画展・イベントの詳細は、ウェブサイトをご覧ください



早稲田大学坪内博士記念演劇博物館